

地域研究アーカイブ画像の活かし方

地理学と歴史学の視点から考える



イラン東部、アフガニスタン国境のフルク村の全景（撮影：原隆一）

2024年12月8日(日)

13:30~17:00 (13:00開場)

国立民族学博物館 第4セミナー室

参加費無料 / 要申込

締め切り
12月4日(水)

対面およびオンラインでのハイブリッド開催
定員…対面50名 / オンライン100名(先着順)

<https://forms.gle/q7YauzyqT5892oJT8>



X-DiPLAS(学術知デジタルライブラリの構築)の目的は、散逸の危機に直面する地域研究画像資料のデジタル化・データベース化を通じて、画像研究資源のプラットフォームを構築することにあります。このプラットフォームは、画像研究資源を将来世代の研究者に継承するための重要なツールとなりうるでしょう。

X-DiPLASにおいては、その前身である DiPLASプロジェクト(2016-21年度)もふくめて、9年の歳月をかけ、デジタル化・データベース化の方法を確立してきました。同時に、データベース化した画像のさまざまな活用方法も開拓してきました。このシンポジウムでは、地域研究アーカイブ画像のさらなる活用可能性を、地理学的観点、歴史学的観点から考えてみます。

イラン東部、アフガニスタン国境のフルク村での農作業(撮影:原隆一)

プログラム

13:00 開場

13:30 開会挨拶 吉田憲司(国立民族学博物館 館長)

13:35 趣旨説明 石山俊(国立民族学博物館 プロジェクト研究員)

13:50 研究発表 渡邊三津子(地理学/文教大学 准教授)
原隆一(西アジア地域研究・農村社会学/大東文化大学 名誉教授)

「時代を接続するツールとしての写真アーカイブ」

ー西アジア地域の調査写真を例にー

14:30 研究発表 吉村武典(歴史学/大東文化大学 准教授)

「画像デジタルコンテンツの利用と歴史学」

ーカイロの歴史的建築物を題材にー

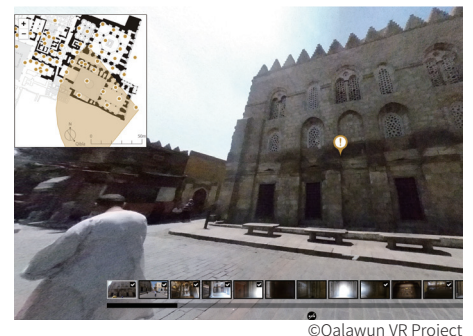
15:10 休憩

15:30 コメントⅠ 永井正勝(デジタル人文学/人間文化研究機構・国立民族学博物館 特任教授)

コメントⅡ 岩谷洋史(文化人類学/姫路獨協大学 講師)

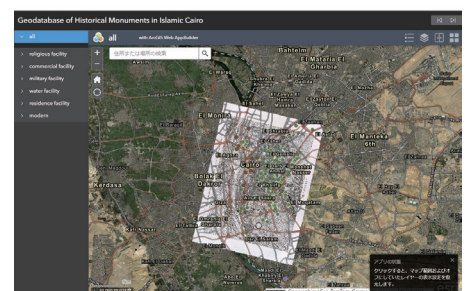
16:10 全体ディスカッション モデレーター 石山俊

16:55 閉会挨拶 飯田卓(国立民族学博物館 教授)



©Qalawun VR Project

Database of Historical Monuments in Islamic Cairo



Database of Historical Monuments in Islamic Cairo

主催: 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト(共創促進研究)「学術知デジタルライブラリの構築」国立民族学博物館拠点(X-DiPLAS)

共催: 大東文化大学東洋研究所西アジア研究班

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 AA研共同利用・共同研究課題「カイロ歴史地区の文化遺産アーカイビングと研究・教育実践」

科研費「中東ムスリム社会との長期現地調査資料の共有による文化遺産の共創と合意形成の研究」(21H04372)

国立民族学博物館 共同研究「フォト・エスノグラフィーの実践に関する方法論の検討」



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10号1番

国立民族学博物館研究協力課共同利用係

kikourenkei@minpaku.ac.jp

交通のご案内

大阪モノレール 「万博記念公園駅」「公園東口駅」下車徒歩約15分

バス

阪急茨木駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約15分

乗用車

万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※万博記念公園各ゲートで、当館でのシンポジウムに参加する旨をお伝えください。

※当館の展示をご覧いただくには別途観覧料が必要です。

※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

